

1. 地震発生後の避難・行動の流れ

揺れた

まずは身の安全

- ・頭を守り、揺れが収まるまで待つ



丈夫な机がない時は、クッション、かばん、ナベなど身近にあるもので頭を守りましょう

- ・安全に消せる場合は火を消す
- ・各具の転倒や落下、ガラスの破片などに注意

揺れが収まった

状況確認・連絡

- ・けがをしないように靴やスリッパをはく
- ・家族の安否、家屋の被害状況の確認
- ・出口の確保
- ・ガスの元栓閉め・電気ブレーカーを切る
- ・ラジオ、スマートフォン等で災害状況把握
- ・非常持ち出し品を準備

災害の危険解消

自宅での滞在が可能か



在宅避難



避難先へ

危険がない場合、自宅で避難生活を!

避難所は、不特定多数の方が避難生活を送るため、環境の変化とともに大きな負担がかかることが想定されます。火災や家屋倒壊などの危険がない場合は自宅で避難生活を続ける「在宅避難」を考えましょう。その際は、下記のことを心掛けましょう。



避難先へ安全に避難するための6つのポイント

- ① ガス・水道の元栓を閉め・ブレーカーを切る!



- ② 近所への声かけ! 黄色の布を揚げる



- ③ 高齢者や障がいのある方などの避難誘導を!



- ④ 原則徒歩で! (渋滞抑止・高齢者や障がいのある方などの避難を妨げない)



- ⑤ 木造住宅密集地やがけ地は避け、川の近くへ行く時は注意を!



- ⑥ 二次災害に気をつけながら消火・人命救助の手伝いを!



2. 避難行動・防災マップ

//// は土砂災害特別警戒区域で、二次災害の危険があるため通行を避けて、避難してください。



施設の凡例

	避難施設		災害備蓄倉庫
	相模原市避難施設		災害時協力井戸
	準救護連絡所	////	土砂災害特別警戒区域
	震災時医療拠点		市民センター・連絡所
	一時滞在施設(帰宅困難者)		消防署・消防署出張所
	AED設置場所		消防団器具置場

気を付けて！

1. 空き家

耐火性が低いと倒壊しやすく、無人のため火災延焼の危険あり

2. 古いブロック塀：石垣

大きな地震では倒壊する危険があるため、近づかない。

3. 狭い道

近くの家が倒壊した時、道を塞がれて通りにくくなる可能性有

4. 電線

切れた電線は停電時でも関電の危険があるので、絶対に近づかない

3. 安否確認

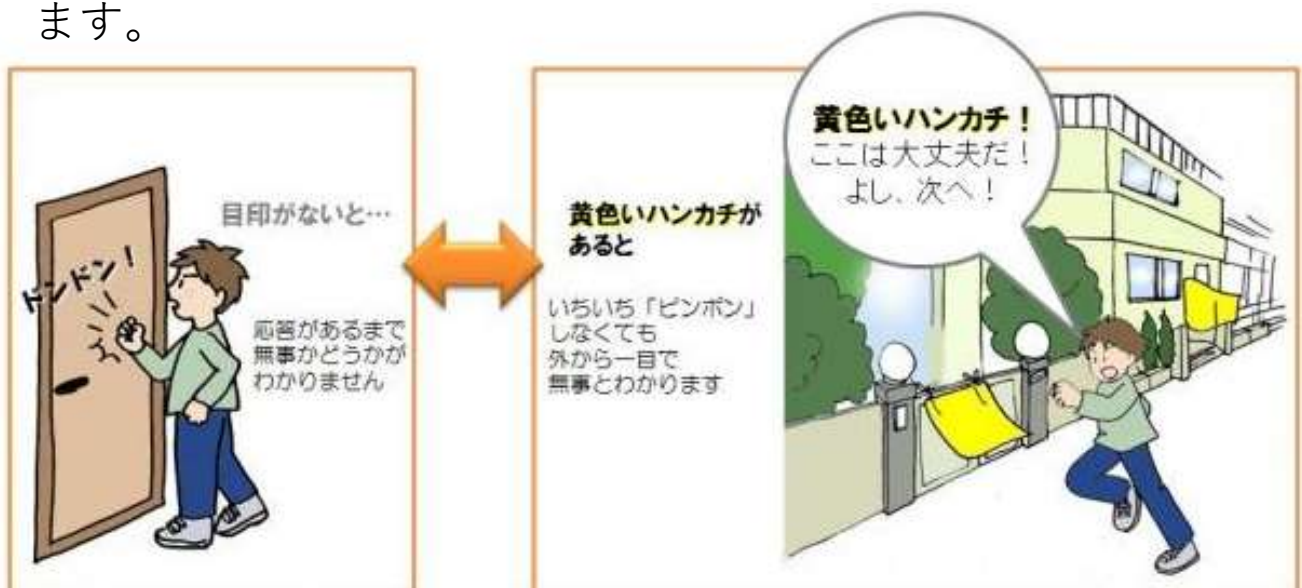
無事の「黄色のタオル」を揚げましょう。

大きく見脱黄色いものなら、タオル、Tシャツ、布、黄色のごみビニール袋でも構いません。外から見える位置に揚げ、安全を知らせてください。

例えば、自宅の玄関先の形状に合わせて、門扉に掛けたり、郵便受けに挟んだりして、外から見てわかりやすい場所に掲げてください。



外から安全を確認できれば、次の家屋を確認できる分、早く多くの人の救助に向かうことができるため、ご協力をお願いします。



4. 被災者の救出活動

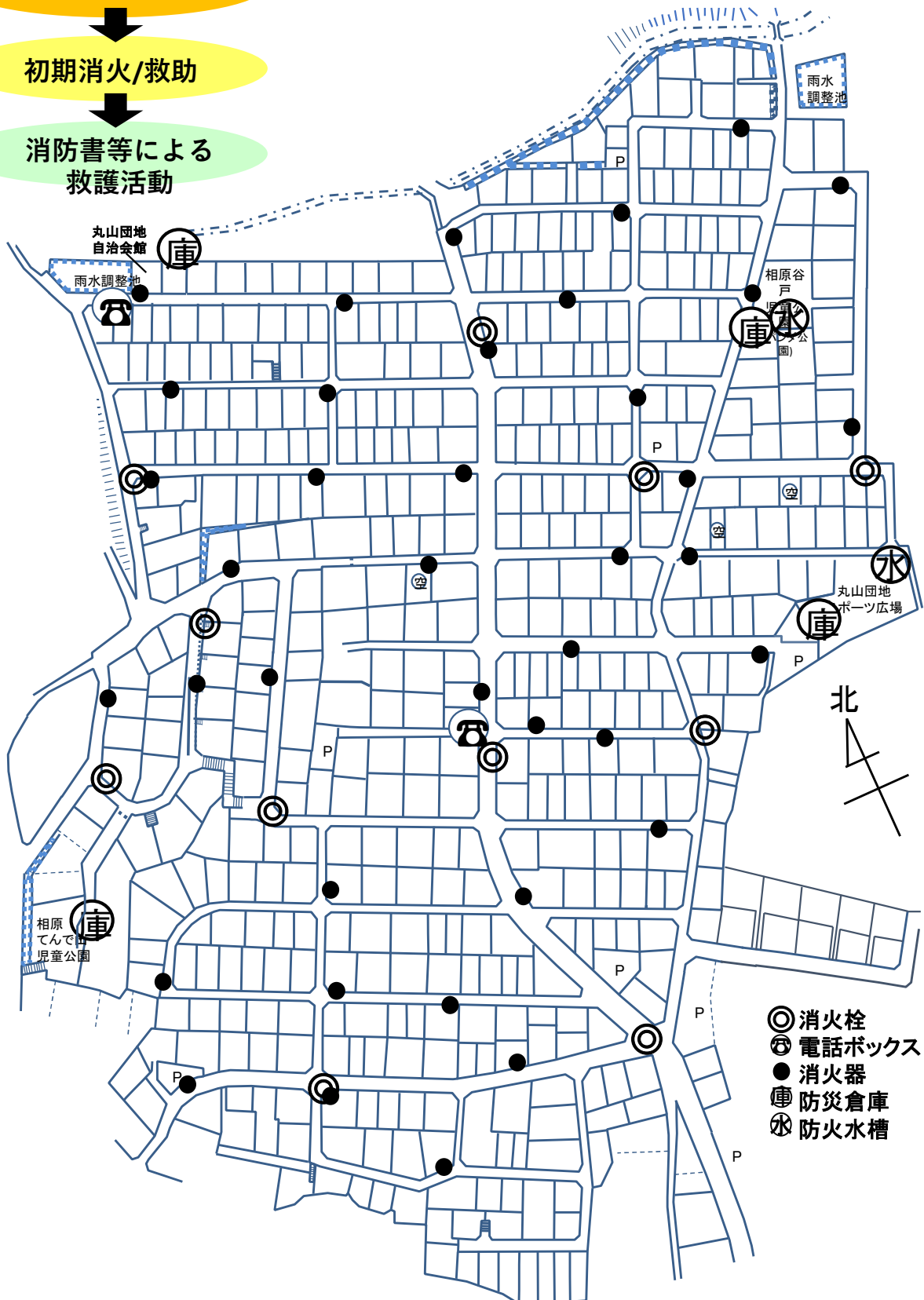
地震発生時には消防等の防災関係機関だけでは十分な対応が出来ない可能性があるため、近隣住民が協力して救出・救助にあってください。

火災・下敷き者発見

近隣の助けを呼ぶ

初期消火/救助

消防書等による
救護活動



5. 災害伝言ダイヤルの使い方

	伝言の録音	伝言の再生
手順①	171に電話	171に電話
	※音声案内を聞いて下さい <u>伝言を録音される方は1(いち)、暗証番号を利用する録音は3(さん)をダイヤルして下さい</u>	※音声案内を聞いて下さい <u>伝言を再生される方は2(に)、暗証番号を利用するの再生は4(よん)をダイヤルして下さい</u>
手順②	1(または3)を入力	2(または4)を入力
	※音声案内を聞いて下さい <u>伝言を録音したい電話番号を市外局番からダイヤルして下さい</u>	※音声案内を聞いて下さい <u>録音された伝言を聴きたい電話番号を市外局番からダイヤルして下さい</u>
手順③	市外局番から入力	市外局番から入力
	※音声案内を聞いて下さい <u>プッシュ式の電話機をご利用の方は数字の1(いち)のあと#(シャープ)を押して下さい</u>	※音声案内を聞いて下さい <u>伝言を再生される方は2(に)、暗証番号を利用するの再生は4(よん)をダイヤルして下さい</u>
手順④	30秒以内で録音	再生されます

※Web171も有ります。詳細は総務省HPをご参照ください。

体験が出来ます

- ・毎月1日、15日
- ・防災週間 8月30日～9月5日
- ・防災とボランティア週間 1月17日～1月21日
- ・正月三が日 1月1日～3日